

# 6,600V用アルミ導体ケーブルが 発電所初採用

## 鹿児島市のメガソーラー 2カ所に

SFCC / 古河電工 / 古河電工産業電線



SFCC（神奈川県川崎  
市、昭和電線ホールデ  
ィングスと古河電工業  
が共同出資し設立した建  
設・電販市場向け汎用電  
線の販売会社）はこのほ  
ど、新製品の6600V<sup>ト</sup>  
用アルミ導体CVケーブ  
ル「らくらくアルミケー  
ブル（ALICVケーブ  
ル）」が、鹿児島県の阿  
久根第一・第二太陽光発  
電所（施工：九州おひさ  
ま発電、1990<sup>社</sup>）と同第  
二太陽光発電所（施工：  
九州エナジー、1990<sup>社</sup>）  
の建設工事に採用され  
たと発表した。

し、SFCCが  
販売している。  
一般的な銅導体  
ケーブルと比較  
して軽量で使い  
勝手がよく、延  
線作業の効率化  
により工期短縮  
を実現できる。  
今回は、高圧  
キュービクル間  
の配線に新製品  
の6600V<sup>ト</sup>ALICV  
ケーブル、集電箱と接続  
箱とPCS間の配線に既  
存製品の600V<sup>ト</sup>ALICV  
ケーブルを納入し  
た。また、キュービクル  
内での端末処理に屋内終  
端接続材料（古河電工パ  
ーサーシステム）も納入し  
た。

工事を担当した大鹿電  
業（鹿児島県鹿児島市）  
から、「ALICVケーブ  
ル採用により約20<sup>%</sup>省力  
化できた。作業員の疲労  
もかなり軽減された」と  
評価された。建設現場に  
おける作業効率改善とい  
う観点から、太陽光発電  
をはじめとする再生可能  
エネルギー施設の普  
及に力を入れる方針。



阿久根第一・第二太陽光発電所



新エネルギー新聞